

平成23年5月2日
原子力安全対策課
(2 3 - 6)
<17時30分 諸君表>

敦賀発電所2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力116万kW）は、定格熱出力一定運転中の平成23年5月2日、定例の原子炉容器内にある燃料集合体の周りを循環している1次冷却水中のヨウ素濃度および希ガス濃度の測定*の結果、希ガス（Xe-133）とヨウ素（I-133）が前回の測定値（4月26日測定、5.2Bq/cm³（Xe-133）、2.1Bq/cm³（I-133））を上回る値（3,900Bq/cm³（Xe-133）、4.2Bq/cm³（I-133））であることが確認された。

このため、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断し、1次冷却材中の放射能濃度の監視を強化*した。

今後、漏えい燃料の特定調査を行うため、計画的に原子炉を停止することを検討する。

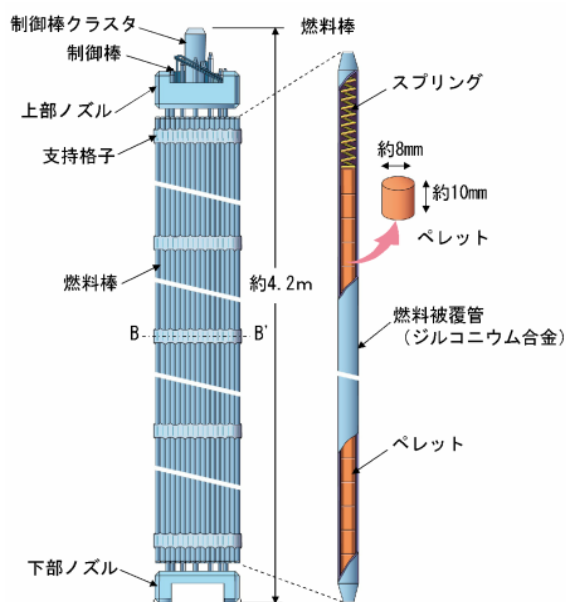
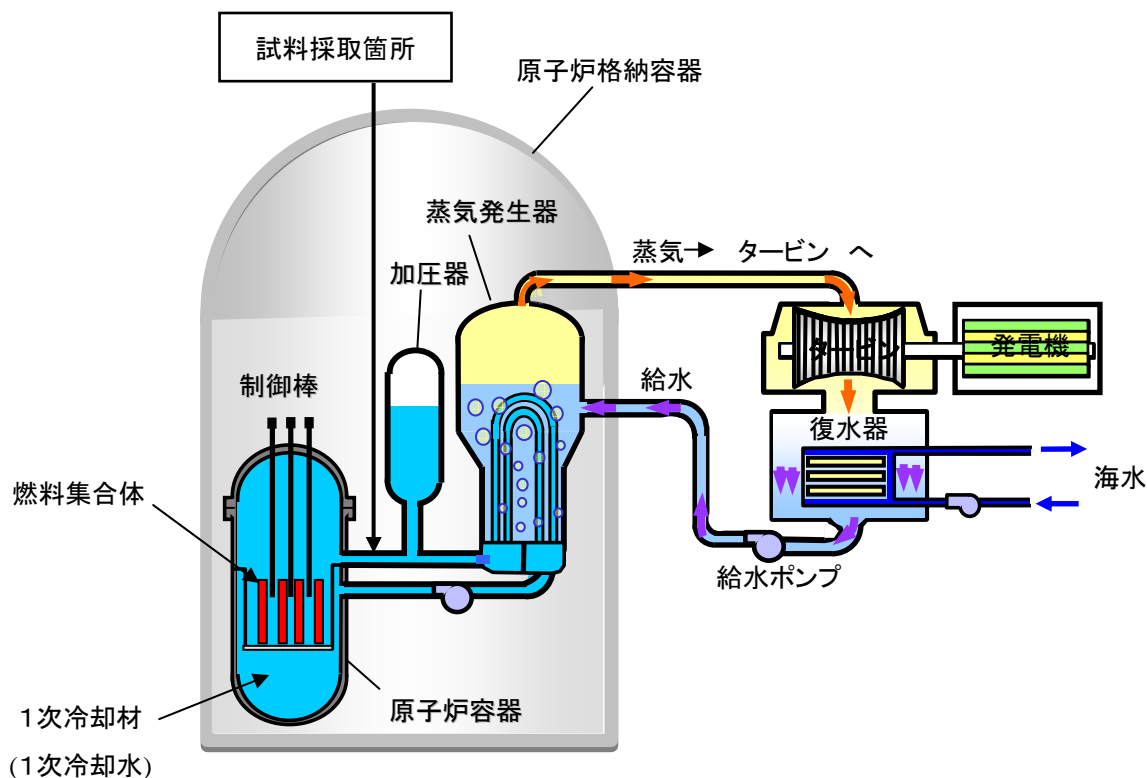
なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

*：燃料ペレットを収納している燃料被覆管に、ごく僅かな漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素や希ガスが1次冷却材中に放出され、その濃度が上昇する。このため、1次冷却材中の放射能濃度を測定し、その変化から漏えいの有無を判断している。

測定項目	定例測定	→	監視強化
ヨウ素濃度	1回/週	→	1回/日
希ガス濃度	1回/週	→	1回/日

問い合わせ先(担当：内園)
内線2353・直通0776(20)0314

敦賀発電所 2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について



【燃料集合体の仕様】
 燃料タイプ：17×17型
 全長：約4m
 全幅：約21cm
 支持格子数：9個
 燃料被覆管材質：ジルカロイ-4
 燃料被覆管外形：9.5mm
 燃料被覆管肉厚：1.14mm
 装荷体数：193体
 最高燃焼度：48,000Mwd/t

敦賀発電所2号機 1次冷却材中のヨウ素濃度、希ガス濃度および電気出力の推移

(第18サイクル 平成22年7月12日～平成23年5月2日)

